

明治39年岐阜地区入植の頃の記録
『常呂町岐阜部落開基80周年記念誌』からの抜粋・編集

*不破清吉談

(略) 明治39年義兄林幸一郎と共に移住したが、現在の中部、東部、第一方面に若干人家がある程度で、その人たちの納屋などを借りて仮住居。現西部地区で土地の貸付を受けたが開墾に通うのにも道路がなく、現青年研修所(注：現岐阜集落センター)横の斜面を登って6線の沢(国枝一雄氏宅付近)を渡り、開墾の現場へ通ったが、密林の王者熊の出没甚だしく、居を移すのに数年かかり、中には中部方面に仮小屋を建てて開墾しながらも、熊の出没が少なくなってようやく所有地に住居を建てた人もある。

道なき6号の小道・6線の沢

少しは道路らしくと協同出資で現在の6号の坂を造り、6線の沢には木橋を架けて通行しやすくした。

当時、新移民は「トワタリ」と言われていたので、6号の坂は長くトワタリ坂と呼ばれていた。

この工事は明治40年から41年にかけて農閑の時を見て施工されたが、その後、西部地区の開拓は進み、入居者も多くなってきた。(略)